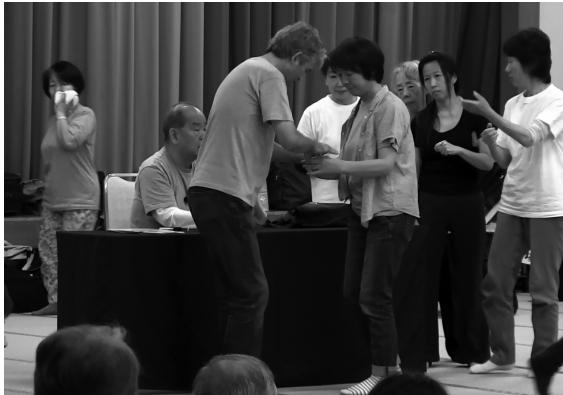


■幹事長の挨拶

久保明子

今年も十二月のUTA会セミ

ナーが近づきました。一年一年が本当にあつという間に過ぎていきます。そんな速さの中、本年度の最大のテーマ「闇の大噴出と総崩壊」いかがでしたでしょ



第17回UTA会セミナー風景

うか。できた方もできなかつた方も、それぞれ自分で試行錯誤しながら学んでこられたことで、します。

私はやつと闇の大噴出とまでいきませんが、ほんの少し出始めた気がします。そして、最後は田池留吉に合わせる瞑想、本当に難関です。それでも地域で学ぶ機会に恵まれ、どこに住んでいても、誰でも共に学べるス

カイプ瞑想会も毎月行われています。また新たに少人数で参加するセミナー「愛 あなたは愛です」も行されました。セミナーもこのように様変わりしました。これからはこのようにいろいろな形で学んでいけるようになつていくのかなあとthoughtいました。

皆で参加する学び、一人で

も学べるように私達は愛の教材をたくさん提供させてきました。新しく出版された『磁場と反転』、UTAの輪の小冊子、UTAの輪のタオル、五訓入りの愛の字のラミネート、等々、たくさん

の教材を頂きました。私達はどのような境遇でも自分さえ学ぼうと思えたら、どこでも誰でもが学べるようになつてているのが凄いことだと実感します。

「愛 あなたは愛です」のセミナーに出られませんでしたが、母と二人でいる時間が私にとつてはセミナーになりました。ゆつたりとした時間でした。そこに、またま母が気にかけていた孫が、お嫁さんになる人を連れ我が家に來たのです。母は、それは、それは喜びました。肉のことと

はいえ本当にうれしい、楽しい、幸せな時間を頂きました。翌朝、若い二人はおばあちゃんに、これからまた時々来るからねと優しい言葉を残し、母の手を握り、出かけて行きました。そして、その一週間後、母は九十二歳で静かに亡くなりました。

母は、九十歳を過ぎてこの地に来て、学びを孫に引き継いで今世の幕を閉じて逝ったと私は思いました。この夏の一ヶ月間の出来事を通して、全ては自分で決めていたことだつたと思えたのです。どこにいても気付くチャンスがあることを体験させてもらいました。

そしてまた、二十年以上セミナーのお世話をさせてもらつてきましたが、今思えば形だけに終始してきたように思います。お世話を相手を助けてたいとする自分の間違いにやつ

と気が付いた私です。学ぶ動機の間違いもここにありました。

UTA会のセミナーも後一年余りとなつた今、さまざま現象の中から、はつきりと「自分を救うのは自分」ということを分からせてもらっています。

$1+2=3$ の厳しさでした。その厳しさは優しくもありました。心も軽くなっています。これからは、

苦しんでいる自分自身を救う反転のできる自分になれるような学びにしていきます。

このような紙面を私的なことで埋めましたが、最近気付けたことを書かせてもらいました。ありがとうございます。

田池先生より「本当の愛はパワーなんです。それを知るためにOリングテストを通して、愛はパワーということを確認し、地獄の底から出てきた自分を愛に返していくのが人生です」という講話のあとに、二十名ずつ三回、合計六十名の方が名前を

UTA会風景

■第十六回UTA会の開催状況

二〇一三年五月十九日から二十一日まで、琵琶湖グランドホテルで第十六回UTA会が開催され、約七百六十名の会員が参加されました。

今回は、前日泊（十八日）の夜に、田池先生、塩川さんが同席されて、一時間ほど勉強会が行われました。

田池先生より「本当の愛はパワーなんです。それを知るためにOリングテストを通して、愛はパワーということを確認し、地獄の底から出てきた自分を愛に返していくのが人生です」という講話のあとに、二十名ずつ三回、合計六十名の方が名前を



呼ばれ、前へ出て、大噴出、総崩壊の勉強を行いました。途中、塩川さんを通してメッセージが語られました。

初日は久保幹事長の報告に続き、

田池先生が「今回は、皆さん方は愛だということに、自分は愛ということに目覚めていこうというのが学びのテーマです。段々、時間がなくなってきたので真っ直ぐに学んでいきました」と思っています。大噴出、総崩壊を通して、たくさん背負っている過去世を愛に目覚めさせていこうとするの

が人生です」との講話のあと、名前を呼ばれた二十名ずつ四回、また、年齢別に四つに分けられた箱から抽選で二十五名ずつ二回、合計百三十名の方が前へ出られて、大噴出、総崩壊の勉強を行いました。途中、数

名の方に塩川さんを通してメッセージが語られました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間で各自がそれぞれの場所で過ごされました。

午後からは昨日に続き、田池先生より名前を呼ばれた二十名ずつ四回、年齢別の抽選で二十五名ずつ二回、合計百三十名の方が前へ出られ、大噴出、総崩壊の勉強を行いました。途中、数名の方に塩川さんを通してメッセージが語られました。

その後に、名前を呼ばれた二十名二回、休憩を挟んで、更に四十名。合計八十名の方が前へ出て、大噴出、総崩壊の勉強を行いました。途中、数名の方が塩川さんを通してメッセージが語られました。

三日目は、田池先生より、「十二月に『あなたは愛です』という本が出版されますので、十二月のセミナーが出版記念セミナーとして開催されます。それまでに、私は愛です、あなたは愛ですを、しつかり信じら

れるようになつていただきたいと思っています。そのためにはグッズが用意されています。なるほど愛のパワーが働いている、これは一体何だろうかということを、死ぬまでに自分で納得できるようになつていただきたい。最後は瞑想、そして、噴火して崩壊していき、すべては喜びであることを見信していただきたい」とのお話がありました。

最後は、全員で「ふるさとの歌」歌い、三日間のセミナーを終了しました。

■第十七回UTA会の開催状況

二〇一三年九月二十九日から十月一日まで、琵琶湖グランドホテルで第十七回UTA会が開催され、約七百五十名の方々が参加されました。

初日は久保幹事長の挨拶、報告に続き、田池先生からセミナー資料の説明があり、「瞑想、大噴出、反転、総崩壊」という資料が入つていますが、その順番で皆さん各自やっていただくとどうなるか。今回、これをマスターして帰つてください。家に帰つて、または友達と一緒に勉強するときも、これに従つてやつていのがよいです。そうすれば、きっと効果があります。今回のセミナーでの勉強の内容は、全員でゼロ歳の

瞑想をして、お母さんを呼んで、そ

ました。

これから前へ出て、瞑想、大噴出、田池留吉を思い反転、総崩壊を行ったいと思います。今回のセミナーでは指名する方が一班三十名で、五班の計百五十名、そして、抽選で十班、三百名の合計四百五十名の方に前へ出て勉強をしていただきます」との

お話がありました。その後、一班から六班までが前へ出て勉強されました。

途中、数名の方に塩川さんを通してメッセージが語られました。

三日目は、昨日に引き続き、十三班から十五班の方が前へ出て勉強されました。途中、数名の方に塩川さんを通してメッセージが語られました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間で各自がそれぞれの場所で過ごされました。

最後に、田池先生より「最後に復習ですけども、一番目は、お母さんの温もり。本にもホームページにも書いてありますので、お母さんの温もりが分かるようになつて、次の

午後からは昨日に引き続き、七班から十二班までの方が、前へ出て勉強されました。途中、数名の方に塩川さんを通してメッセージが語られられました。

その中で、田池先生より、「皆さんの反転は上から言い聞かせていました。出てくるなという反転はブラックです。そうではなく、田池留吉を思い、優しい思いで一緒に愛に帰ろうと包み込んでいくんですよ」との

十二月に来てください。できるだけ分かるようになつてください。勉強の進み方が早い。お母さんの温もりが分からない人は進み方が遅いか、まったく変化がない。二番目、これが一番大事なこと。田池留吉に針を合わせ、心を合わせること。これが大事です。難行苦行ですが、どんどんやつていくうちに、ちょっとでも近づくと身体や生活が変化してきます。私の状態になるのは百年、千年でもなりません。でも、私はあなたです。あなたは私、一つと言つていいんです。比べるものではあります。本当の自分に出会うには万年かかるということを肝に銘じてやつてください。田池留吉に合わせること、変わつてきたら嬉しくなるんです。二五〇年後には、またニューヨークで会いましょう。そこで次元移行に

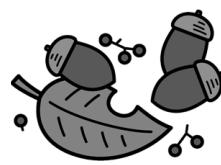
向かつて更に一緒にやつていくんです。焦つても仕方が無いけれど、命をかけてやらなければならんのです。自己選択、自己責任だから、結果は自分のものです。死んだら誰もいません。信じていなければ田池留吉も出できません。ただし、私は死んだら一時間以内に塩川さんにメッセージを送りますから聞いてください。その時の勉強会は、UTAの輪で行います。同窓会的なUTA会は、来年の十二月で終わり、その後はUTAの輪で行います。田池留吉に心を合わせていけば勝手に分かつてきます。反転の勉強をそれぞれやつていてください。そして、また十二月にお会いしましよう」というお話があり、三日間のセミナーが終了しました。

【セミナーの配信について】

UTA会セミナーは、セミナー当日にはライブ配信を、そして、終了後には録画の配信を行っています。どちらもUTAブックのホームページより、ご覧いただけます。

録画配信はご自分のパソコンにダウンロードをして、何度でも繰り返し見ることができますので、ご活用ください。

なお、ご覧いただくには、UTA会の会員の方にお知らせしましたユーザー名とパスワードが必要となります。



ホームページより

このコーナーは、田池先生のホームページに掲載されたメッセージです。

卑弥呼、悲哀から目覚めへ

— 卑弥呼と言えば、どのような思いが湧いて出てくるでしょうか。

卑弥呼、卑弥呼、卑弥呼。語りたくない言葉でした。一方では語りたかった言葉でした。卑弥呼と呼びたかった。卑弥呼を認めさせたかった。我は卑弥呼なりと認めさせたかった。そんな思いが湧いて出てきます。

卑弥呼は素晴らしい者として、権力も何もかもその手中に收めました。確かに卑弥呼は存在していません。卑弥呼と呼ばれる意識は存在しています。

私は卑弥呼なり。そんな思いの中で転生を繰り返してきたたくさんの意識達に、今、告げます。卑弥呼の思いを語りなさい。卑弥呼に思いを向けなさい。卑弥呼は素晴らしい者と、それぞれの思いを語りなさい。卑弥呼に思いをさせません。

卑弥呼の語る言葉、卑弥呼から出るエネルギーは真っ黒です。しかし、

卑弥呼は崇められました。崇め奉られました。

そして、その陰でどれだけの巫女が地獄の日々を送つてきたか。

卑弥呼になりたかった巫女たちの思いを今、ここに記しなさい。

卑弥呼は巫女の頂点ではあります。しかし、巫女はそのように思い、自分を叱咤激励しつたげきし、我的靈能力を高めるために、どんな苦難にも挑んでまいりました。

卑弥呼は素晴らしい者として、権勢を誇つてきた、財力を手にしきた、すべてを己の意のままに操つてきた、その世界はたちまち闇黒の世界へと変わつていきました。

いいえ、変わつていったのではありません。そこが闇黒の世界だつた

の地位を我がものにしたかった。卑弥呼は素晴らしい者と、それぞれの心に培つてきました。

卑弥呼は存在しますか。

卑弥呼はあなたの中の中に存在する我一番、我を敬え、我を認めよ、我こそ素晴らしい者、その意識の象徴です。

卑弥呼という人間は確かに存在していました。しかし、その者もまた己の出したエネルギーの中で地獄を見てまいりました。

地獄、地獄、地獄。すべてが地獄でした。

権勢を誇つてきた、財力を手にしきた、すべてを己の意のままに操つてきた、その世界はたちまち闇黒の世界へと変わつていきました。

いいえ、変わつていったのではありません。そこが闇黒の世界だつた

ことに気付けなかつただけです。

愚かな、愚かな心の持ち主。意識の世界は暗闇の世界、哀れな世界。

己を知らずにきた哀れな卑弥呼の思いを、それぞれの閉ざされた心の中から叫んでください。卑弥呼は素晴らしい者ではございません。卑弥呼は哀れな存在です。

しかし、その卑弥呼の意識も、愛に目覚める時がやつてきました。温もりと喜びの中にあつた自分たつたと、そう、それぞれの心の中の卑弥呼に伝えなさい。ともに、帰れることを伝えなさい。

卑弥呼、ああ、卑弥呼。語りたくない思いがあります。語らせてくださいといふ思いも来ます。

心をしつかりと温もりに喜びに愛に向け、これから的时间、卑弥呼を語つてまいります。

私はたくさんの靈能者を引き入れ

てきました。心の中でたくさんの靈能者を使つてきました。その靈能をもつて私の権勢を誇つてまいりました。卑弥呼の力を示したかつた。靈能力に長けた者を起用しました。

寵愛ちようあいしました。私のもとに侍はべらせました。卑弥呼は素晴らしく、そして、すべての権力をこの手の中に収めたかつた。

権力を集めれば、私は素晴らしい人間になる。私は神に選ばれた者。

私のもとにすべてを侍はべさせていきました。私の支配下にすべてを置きました。私の支配下にすべてを置きたかった。

靈能力者、いわゆる神のお告げをする者、巫女。巫女を私の手中に收めました。巫女の言葉を私は利用してきました。政治に、国を統一する

ために利用してきました。

私の役に立たない巫女は即刻、首を撥ねました。その命を簡単に奪い取りました。たくさんの巫女を殺してきました。巫女を一人の人間だと思つてきませんでした。私の奴隸、私の僕でした。私は巫女たちの思いを全く受け入れようとはしませんでした。ただ私は、私が素晴らしい者として頂点を極めたかつた。そのために巫女の力を利用してきました。

巫女の力を利用しながら、私の地位を大きく、大きく、大きく、この天まで届けと大きく伸ばしていきました。そして、盤石なものにしたかった。そして、盤石なものにしたかった。

巫女の恨み辛みを一身に受けました。しかし、私はそんなものものともしなかつた。私は選ばれた人間です。素晴らしい、すべてをこの手中

に収められる人間なんです。巫女の一人や二人、いいえ、十人、百人、一千人、もつと、もつと私のもとに侍らせました。権勢を誇つてきました。卑弥呼の名を全国に響き渡らせたかった。いいえ、海を越えて、あの海を越えたあの国へも私のこの名前を広めたかった。私の野望は尽きることはありませんでした。

この身をどこまでも大きく、大きくしていきました。そのためには何だつて利用してきました。

私は素晴らしい者。たくさんの巫女の犠牲の上に私は権勢を欲しいままにしてまいりました。

私の人生は素晴らしいものであらねばなりませんでした。

私は卑弥呼の意識に思いを向け淡々と語ります。卑弥呼を淡々と語つ

ていきます。私の中に卑弥呼の思いが喜びへと変わつていく様を感じています。田池留吉、アルバート、愛の方向に向けながら、卑弥呼を淡々と語つていける喜びを感じます。

ありがとうございます。卑弥呼の意識は真つ暗な真つ黒などうしようもない苦しみの中に落ちて、落ちて、落ちまくりました。

しかし、私は今世、こうして肉体を持ち、卑弥呼の思いを心に感じ、そして、卑弥呼の思いを心に語り、

この思いとともに母なる宇宙へ帰れる喜びを伝えていきます。伝えることが喜びです。

卑弥呼へ思いを喜びで向けていきます。卑弥呼を喜びで語つてきます。どうぞ、皆さんも、淡々と卑弥呼を語つてください。

卑弥呼は間違つてきました。それ

ぞれの心の中に作つてきました卑弥呼の思い、卑弥呼の意識、その切々と語る卑弥呼に心を向け、どうぞ、あなたの心から吐き出していつてください。

卑弥呼は待つています。心を温もりと優しさで包んでくれるのを待っています。それぞれの心の中の卑弥呼を、どうぞ、どうぞ、優しく、優しく包み込み、卑弥呼の心を聞いてあげてください。

ニ 遠くに眺めている二上山は何とも懐かしい山の姿でした。あの山をそんな思いで眺めながら、私は今世、何度、あの道を通り続けてきたことか。

何度も、何度も歩きました。大神神社から石上神宮まで。二上山を眺めながら。

卑弥呼、邪馬台国、飛鳥というほうに意識を向ければ、あの辺りが妙に懐かしい思いとともに思い出されます。私はあの道が好きでした。あの一帯にこの肉体を運ばせました。

二上山を眺めながら歩く道が好きでした。

それは肉でこの学びと出会う以前の話です。

ああ、卑弥呼よ、卑弥呼。私の中の卑弥呼の思いを心に感じています。卑弥呼よ、あなたも苦しかつたでしょう。とても、とても苦しかつたでしょう。寂しかつたでしょう。あなたは孤独でした。どんなに権力を手にし、財力を手にし、すべてを支配下に置き、その名を轟とどろかせて、あなたの心の中の闇は深遠でした。

どんなに神に選ばれた者だと自分

の中から聞こえてきたとしても、それは、とても、とても苦しみに違いませんでした。

今、卑弥呼という意識に心を向けることにより、この日本の国、そして、世界中の意識の変化がうかがえます。

卑弥呼の持つ力、卑弥呼の流してきたエネルギーを、それぞれの心の中で愛に目覚めさせていく喜びへと繋がつていけば、心の中の重りが軽く、軽くなつていくのではないでしょうか。

卑弥呼とは、それぞれが心につかんできたエネルギーです。

卑弥呼という存在は、ブラックです。その靈能力はブラックです。すべては愛の中にあります。その靈能力は

マイナスのもとで求める靈能力はブラックです。すべては愛の中にあります。それを忘れ去つたからです。

神より特別に選ばれたとする選民意識の象徴として、その意識を助長するものです。私は素晴らしい、我は一番なりという、本当に高い、高いそびえ立つ意識を、卑弥呼とい

エネルギーは助長していきました。

どの国においても、いつの時代においても、卑弥呼に代わる存在を、人々の心は作り上げてきたと思いま

す。

まず卑弥呼の心をそれぞれの心の中に確認し、その心、その意識の世界をマイナスからプラスへ変える、いわゆる反転の作業をして、愛へ目覚めさせていくこと、そのことをやつてまいりましょう。

己、己、己の中で、ただ我一番を競い合う中で生まれてくるエネルギーは、本当に大きなブラック、マイナスのエネルギーでしかありません

ん。

その間違いを今世こそ、自分の中でストップしていきましょうということで、私達は、田池留吉のもとに集つてきたのではないでしようか。

それぞれ、心が敏感な状態で、いわゆるチャネリングができるという肉の状態を整えて、田池留吉のもとで学ぶチャンスを自ら用意したのではないでしようか。

同じ轍じつじやくを踏むなどいうことを何度も聞いてきたはずです。

しかし、いかに、喜びと温もりへ自分の心を向けていくか、マイナスからプラスへ、本当に喜びの自分を見出していくか、ということの難しさも身にしみて感じているはずです。

その難しさを自分の中でしつかりと確認して、だからこそ、本当に今世こそ、自分の中に、大きな方向転

換を促してまいりましょう。

今、卑弥呼に心を向けるこの機会は、大きな勉強の機会だと思います。

卑弥呼に意識を向けて、卑弥呼の心を得意げに語るのではなく、その語る自分の中の卑弥呼の思いを、どれだけ自分の中で喜びと温もりで包んでいけるか、マイナスからプラスへ転じていけるか、そちらのほうに心を向けていつてください。

得意げに語る思いを心に感じてくれば、その思いは反転です。

そういうことを学ぶために、今、卑弥呼に思いを向ける学びの機会が、それぞれに用意されているのだと思います。

た者。そのように私は皆から崇め奉られた。そのように心の記憶として残っています。

心の中に神より選ばれし者、私はその思いを強く、強く秘めたまま、この身を捨てました。そして、私は自分の真つ暗な、真つ暗な中に真つ逆さまに落ちていきました。そこは何も、何もありませんでした。本当に何もなかつた。何もないけれど、私の中の苦しみが私に覆いかぶさつてきました。私は冷たく、冷たく凍えて、凍えて、小さく、小さく凝り固りました。私の誇つてきたものは何だつたのか。私の頼みの綱としてきたものは何だつたのか。

私の母を思いなさい。お母さんを思つてごらんなさいと、そんな心に届く声があるけれど、私は母を思え

三 卑弥呼の心を思います。

神に一番近い者。神に一番愛され

ずにはいます。私は母を思えずにはいます。私には母はない。いいえ、いらないと思いたかった。私の母はとてもとてもこの素晴らしい私からすれば、とても、とても、とても信じられないほどみすばらしい母でした。私の母親はみすばらしい母でした。どうして、あの母を自分の母だと言えるのでしょうか。母を思うことなど私にはできません。

卑弥呼の心の中は真っ黒な、真っ黒な中にありました。母を思えない卑弥呼がずっと、ずっと長い、長い時をかけて、存在しているんですね。宇宙に存在しているんですね。私はその卑弥呼の心の中に、この思いを届けます。

「私の中の喜び、温もり。あなたの喜び、温もり。一つなんです。」

心の中にあつたんです。私達は一つなんです。お母さんはあなたにそのことを伝えてくれていたはずなんです。

あなたは、卑弥呼という一つのちつぽけな肉にとらわれて、そこから自分を解き放すことができませんでした。あなたはそれから以後、何度も、何度も肉体という形をいただ

く、つまり転生の機会を持つていつたことでしょう。しかし、あなたの心は依然として真っ黒な中に固まつたままでした。

卑弥呼よ、あなたは神に選ばれし者だと自分を主張しております。それがあなたの心の中にしつかりとあることを感じます。

それでは、あなたが神より選ばれし者という、あなたにとつての神とは何なのでしょうか。あなたは何をもつて神と言うのでしょうか。

卑弥呼という心を自分の中から解き放していくこと、それがあなたの喜びなんです。幸せなんです。それしか、あなたは自分で自分を救う道はございません。」

神とは素晴らしい、大きな、大きなすべてを包み込む力を持った存在

苦しい中ですが、私は本当に間違つてきたことを語りたいと思いました。卑弥呼に心を向けなさいといふことです。そんな私の中を私は語らせていただける今があるんですか。

私は卑弥呼という意識をたくさん、たくさん抱え持つてきました。

です。神は目に見えません。だから、私は神に選ばれたということを自分の中から聞いたとき、私は神になれる、私は神の化身だと思つてきました。私の中には神が存在する。神と一つになる。神を求める思いは、とても崇高なものでした。この力をもつてすれば、すべてを支配できる。いえ、支配というのではなく、私は

喜びに導いていけることを、本当に信じていたんです。大きな力でもつて、すべてをその傘下さんかに収めていくことが、この世の喜びに繋がつていくと思つてきました。だから、私はその大きな力を、パワーを神と思つてきました。それが何なのか。具体的に私の心の中には分かりません。しかし、神は存在することを、私の中にはしっかりと抱えています。神は存在する。

神とは素晴らしい崇高な存在であつた。汚されてはならない。

私は神の化身でした。私は崇高な存在。崇高な心の持ち主。崇高な私は素晴らしい、そのように自分を称えてきました。神とは私でした。そう、私は神に成り代わつて、すべてを支配下に治めるべき存在。私の存在はとても大きな存在でした。

そんな心を抱えて、私はすべての人に接してきました。心の中には苦しい思いが溢れています。私は、そのことに一切気付けずに、私は素晴らしいと心から上がつてくる神の声を信じて、信じてきた愚か者です。私はこの身を捨てて感じました。私が握つてきました神。私が信じてきた

私は神に成り代わつて、すべてを支配下に治めるべき存在。私の存在はとても大きな存在でした。田池留吉、アルバート、この喜びと温もりの波動の世界に巡り合いました。このことは、とても、とても大きな、大きな出来事です。卑弥呼の心を感じるたびに、私は、田池留吉、アルバートと呼べる、心の針を向ける、向かられることがどれだけの幸せなことなのか感じずにはいられません。

だから、私は心の針を田池留吉、アルバート、愛の方向に向け、卑弥呼の思いを心に受け、その卑弥呼の

いきました。

今、卑弥呼のほうに心を向けて、卑弥呼の心を語りました。卑弥呼という特定の意識に限らず、神を、自分の中の神を感じてきた意識に、ほぼ共通する思いだと思います。

そんな中で、私達は肉を持つて、田池留吉、アルバート、この喜びと温もりの波動の世界に巡り合いました。このことは、とても、とても大きな、大きな出来事です。卑弥呼の心を感じるたびに、私は、田池留吉、アルバートと呼べる、心の針を向ける、向かられることがどれだけの幸せなことなのか感じずにはいられません。

だから、私は心の針を田池留吉、アルバート、愛の方向に向け、卑弥呼の思いを心に受け、その卑弥呼の

思いにこの喜びと温もりを伝えていくことを喜びと感じます。

伝えていきたい、伝えていかなければならぬ、そんなことを感じます。伝えていくことが私の喜びなんです。卑弥呼の心に、少しでも喜びと温もり、安らぎ、本当の幸せを広げて、自分の本当のふるさとへ帰つていこうと呼びかけ、そういう思いを流してまいります。

長い、長い時をかけて心に培つてきたエネルギーを、今ようやく明るい光の中で、しつかりと見つめることができる今です。本当にありがとうございます。

四 卑弥呼を題材にして、反省と瞑想の時間を持たれていると思います。

卑弥呼が巫女を利用して、己の権力、己というものを誇示しようと/or>るエネルギーを、自分の中の卑弥呼から感じてこられたと思います。

では、反対に巫女はただ利用されていつただけ、そして、用無しになれば、捨て去られただけ、哀しくて辛い巫女の心、あるいは恨みと呪いだけの心の中に自らを苦しめていつただけなのでしょうか。

巫女の心を聞いてください。

巫女は確かに悲しくて苦しくて辛くとも、どんな困難にも打ち勝てる

ように教育されてきました。それは、ただひたすらに神の声を聞くという修行です。その中で巫女として培つてきた心、エネルギーもまた淒まじいものだつたはずです。私は利用されているのではない、卑弥呼を操つているんだ。我こそ神なり、私は卑

弥呼の上に行くもの、そのようなエネルギーを流しながら、形の上では卑弥呼に仕ってきたのです。

そのエネルギーを、それぞれの心

でもつと深く味わつていきましょう。

巫女の心も卑弥呼に負けず劣らず凄まじいものです。ただ年端のいかない幼少の身で親元から引き離され、ひたすら神の声を聞くという訓練を強いられたということかもしれません、しかし、巫女はしたたかです。どんなに蔑さげすまれても生き延びる術を自ら培つてきました。

己の呪術に身を滅ぼしていった末路ですが、その中で培つてきたエネルギーは、卑弥呼以上の巫女もありません

卑弥呼を陰で操る巫女のエネルギー、パワー。卑弥呼以上に、ブラックパワーをもつて、すべてを牛耳つ

てやる、我一番なり、そんな巫女達の心の中でした。すべては真っ暗闇、闇黒の中でした。そのことに全く気付かずに、ただ闇に心を売っていた愚かな自分達でした。

五 アルバートを呼び瞑想を重ねます。湧き上がる喜び、温もり。私の中には、ただ、田池留吉、アルバートと呼べる私があります。

私は、田池留吉、アルバートと呼べる喜びの中になります。
お母さん、ありがとうございます。
ありがとうございます。

私の中の愛を思える喜びです。愛は私です。愛のエネルギー、パワーは私そのものでした。愛に帰る道。自分自身に帰る道。

卑弥呼よ、私達は今、田池留吉の

もとで愛を学んでいます。本当の私達を学んでいます。私達の心の中に愛、その喜びと温もり、愛のエネルギー、パワーがありました。あなたの心の中にもあります。私達はあなたと一つなんです。私はあなた、あなたは私、そんな一つの世界を心で学ばせていただきました。

卑弥呼の意識に語りかけます。私の中の卑弥呼の意識に語りかけます。苦しい、苦しい中を生き抜いてきた意識でした。しかし、私の中の愛に目覚めた私はあなたの意識に語ります。

あなたは私、私はあなた、私達はあなたは私、私は神なりの思いを抱え、あなたは、どこまで、どこまで苦しんでいくのでしょうか。

私はあなたに伝えます。しつかりと伝えます。

あなたの心を感じてきました。それは私の心でもありました。私とあなたは一つだからです。私とあなたは一つ。一つの中で、私は私に目覚めました。私の中の愛に目覚めました。だからあなたに伝えることができます。しつかりとはつきりと伝えることができます。

私達は愛。愛は私達。私達の中に

いたでいています。そして、肉体を持たないあなたに今、伝えます。卑弥呼という意識に伝えます。卑弥呼は素晴らしい意識ではありませんでした。

我を認めよ、我一番なり、我是素晴らしい、我は神なりの思いを抱え、あなたは、どこまで、どこまで苦しんでいくのでしょうか。

した。

すべてがありました。あなたの中の愛に目覚めてください。愛、そのエネルギー、パワーに目覚めてください。

そして、ともに、ともに、自分自身に帰る道とともに、ともに歩いてまいりましょう。これから一五〇年、

三〇〇年、次元移行を目指して私達はともに歩いてまいりましょう。

私達は愛に帰ることを約束してきた意識です。

私はこうしてあなたに伝えられることが喜びです。

こうして肉体を持ち、あの懐かしいあなたのふるさと、私のふるさとをこの肉体を通して感じさせていただきました。

今、私はその喜びを感じています。

あの地は喜びでした。卑弥呼、あなたが生まれ育ったところは喜びでし

た。あなたとともに私はあります。

私はあなたとともにあります。心にしつかりと感じさせていただきました。卑弥呼、もうあなたは愛に目覚めていく道に入っているんです。

私はあなたに伝えます。

田池留吉、アルバートに心を向けなさい。

田池留吉、アルバートはあなたの

中 있습니다。心の中にある喜びと温もり。限りない愛のエネルギーの中に私達はあつたんです。そう私はあなたに伝えます。

心の中に私は喜びの思いを広げてまいります。

母に思いを語ります。お母さん、間違つてきました。

母を見下げ見殺しにしてきた私の中が間違つてきました。

苦しかった、お母さん。苦しかった。母を呼べなかつた。母を呼べなかつた。

私は卑弥呼と呼ばれし意識。

間違つて、間違つて存在してきた

ことを伝えていただきました。ようやく、私の中に一筋の明かりが点りました。心を見つめています。卑弥呼という意識は暗闇の中に落ち

ました。

心の中をしつかりと見つめることをやつてまいります。卑弥呼は素晴らしい、神に選ばれた意識ではございませんでした。

私は心の中に愛を灯す意識だと知りました。

私は心の中に愛を灯す意識だと知りました。心の中をしつかりと見つめることをやつてまいります。卑弥呼は素晴らしい、神に選ばれた意識ではございませんでした。

さん、私はお母さんを呼びたかったです。
心の中に呼びたかったです。

私も母のもとに帰りました。ただ
ただ素直に母を呼べる私になりました
かったです。

六 私は卑弥呼と呼ばれた意識。

心の中にある喜びを感じてください
いと伝わってきます。

心の中の喜び、温もり。それは私
なんでしょうか。私は苦しい、苦しい、
本当に苦しい中にありました。心を、
固く、固く、閉ざした中にあつたこ
とを伝えていただきました。しかし、
私の中にも、本当の喜びと温もり、
開かれた世界があることを知つてく
ださいと伝わってきます。

卑弥呼の心を語つてください
すか。とても、とても嬉しいです。
私はこの喜びと温もりが自分で

あつたことを信じていけることを、
今、少しずつ心に感じ始めています。

私は本当に何度も何度も転生をし
てきました。しかし、誰も、何も、
私は何も伝えられなかつた。あなた
の中のお母さんに心を向けなさいな
んて、誰も教えてくれなかつた。伝
えてくれなかつた。

だから、私は生まれて死んで、生
まれて死んで、小さな中にただただ
閉じ籠つていただけでした。

ようやくあなたの中を広げていき
なさい、あなたの中には限りない喜
びと温もりがあるんですよと、伝え
ていただいたんです。

この喜びと温もりを私だと私に伝
えていけばいいんですか。

そうですよ。あなたの中に確かに
ある喜びと温もりを自分の中に伝え
ていきなさい。

そのように伝わってきます。

卑弥呼よ、卑弥呼。あなたの中を
まだまだしつかりと語らねばなりま
せん。苦しい中にあつたあなたの思
いをどうぞ、しつかりと自分の中で
見つめてください。

あなたの中の喜びと温もり、母の
思いは確かにあなたの中にはあります。
しかし、あなたがあなたの心を自
分で語ることがなければ、その喜び
も温もりも、母の思いもまだまだ小
さなものでしかありません。あなた
の心に作ってきた神の世界を、どう
ぞ、どうぞ、自分の中から崩していっ
てください。

何も知らないで存在すれば、ただ
ただブラックを積み重ね、広げてい
くだけの人生でした。

私は卑弥呼の人生、卑弥呼自身を心に感じたとき、本当にそうだと思います。

田池留吉、アルバートという真なる自分を心に知らずにいる時間の中で、何をどのように伝えようが、神、神と求めようが、自分の中はただただ暗闇。真つ暗な中で「己」というものをしつかりと抱えて、小さな世界に閉じこもっている、それが人間の姿でした。

その中から自分を解き放していくことは、本当に大変なことだと私は心で知りました。

今だからこそ、このように一つの肉体を持って、田池留吉、アルバートの波動を心で感じられるんです。このチャンスを、私は本当にありがとうございました、ありがとう、ただただ受けいくだけです。

心の針をしっかりと向け合わせていくと、小さく凝り固まっていた卑弥呼の心の中にさえも届いていくことを私は、知りました。

すごい、エネルギー、パワー。愛のエネルギー、パワーが卑弥呼の心に届いていくこの現実を、私はしっかりと感じています。

淡淡と私は伝えていける。どうしても、どうしても、ともに帰りたいという思いがあるからです。

間違つてきたのはみんな同じです。

何も知らずに存在していただけのことでした。今、この肉体を通して、真実の世界が明らかになつてくれれば、私は、地獄の奥底に落ち、沈み込んでいる意識達に伝えてまいります。伝えることが喜びとして私の心の中に広がつていきます。淡淡と伝える

こと、それは田池留吉、アルバートの中に私達があつたことを信じる信の強さです。

その信を深めていくことが私の喜びです。苦しい、苦しい真つ暗な闇黒の世界にあつた意識達を感じていくことは喜びです。

心の中には何もありません。ただ伝えていく、広げていく、自分の中に愛という喜びのエネルギーを流していく、ただただそれだけです。

私のこれから的时间はただただそのことをやり続けてまいります。

七 卑弥呼には昼の顔と夜の顔がありました。

昼は、神に仕える身として、巫女達の力を利用し、我は神なりとその力を民衆のもとに示していました。その姿をみだりに公衆には見せな

いけれど、いかにも国を治める長として

そういう雰囲気を作り、そういう雰囲気を醸し出す舞台背景の中、卑弥呼は素晴らしい者だと皆の心に植え付けていきました。

そして、一方、夜の顔がありました。巫女を手玉に取つたように、男どもを手玉に取つた卑弥呼の姿でした。

卑弥呼は権力者と繋がつていきました。その権力者の力を利用していました。

卑弥呼は、神の化身ですと卑弥呼は男どもを手玉に取つていったんです。この心はとても凄まじいものでした。色香に狂う男どもを冷ややかな目で見つめる卑弥呼がありました。卑弥呼の心の中は、人を愛することができないほど冷たい、冷たいもの

でした。

男は私の奴隸。我にかしづけ。ただ権利と財力をこの手に集めるための手段であると冷ややかに計画をしながら、その者の持てるものをみんな吸收するまで、自分に心を向けさせました。神という言葉を使って。

卑弥呼は、時には己を使い、そして時には巫女達を使い、男の心を腑抜けにさせていきました。すべては色と欲で繋がる真っ黒な世界を、卑弥呼は楽しんでいたかのようにも思っています。

卑弥呼の心の中を見ることを知らなかつた男どもを手玉に取つていったんです。この心はとても凄まじいものでした。色香に狂う男どもを冷ややかな目で見つめる卑弥呼がありました。卑弥呼の心の中は、人を愛することができないほど冷たい、冷たいもの

でしょう。

卑弥呼は神だけを求めてきました。神を求める心はとても強かつたです。神は唯一私を裏切らない。神は私なのだから。私は神と一つなのだから。神とともにある私は何も必要としない。

そんな卑弥呼の心を私は今、感じて、それでもなお、卑弥呼に伝えることができます。

間違つていると。そのあなたの心は間違つていて。しかし、あなたの中の苦しみ、暗闇は、あなたの中で喜びと温もりへ帰していけることを伝えていきます。

冷たい、冷たい心に成り下がつたから、何も信じることはできなかつた。たとえ、心から卑弥呼に忠誠を誓う人物が目の前に現れたとしても、卑弥呼の心は動かされなかつたで

大罪人でした。巫女を利用してきたとか、男どもを手玉に取ってきたとか、首をチヨンチヨン撥ねたとか、そんなことよりも、間違った神をして伝えてきた大きな過ちを、過去、繰り返し犯してきたことに対し、どれだけ自分に懺悔してきたか、そういうことだと思います。

田池留吉、アルバートを思い、卑

弥呼と思うとき、泣けてきます。

どんなに大罪人であつたのか、それでも私は、今こうして肉体を持つて大きなチャンスを得ています。

間違った神をして伝えてきた過ちに自ら気付き、自らに懺悔するチャンスを自分に用意しました。それが今世の学びでした。

田池留吉を通して、真実の波動の世界を学ぶという絶好のチャンスを用意しました。私、田池留吉に心を

向けなさいというメッセージがいかに愛であるか、本当にありがとうございます。

今、卑弥呼の心を語ることは私にとって、本当に喜びとなっています。

私は女王、卑弥呼。卑弥呼の世界を作り続けてきました。卑弥呼の世界を広げながら私は転生を繰り返していました。

卑弥呼の心はそのままでした。私はいく度も、いく度も肉体をいたしました。そのたびに地獄の苦しみを味わつてきました。

卑弥呼の時代はよかつたと私は卑弥呼の時代を懐かしく思う時がございました。

私は私を見つめる勇気がありませんでした。私は素晴らしい者、神の化身としてきたことが私の頼りでした。私はその思いをずっと、ずっと心に秘め転生を繰り返してきました。卑弥呼は素晴らしい者ではありませんでした。本当に地に落ちた私

た。卑弥呼が語ってくれます。

私は女王、卑弥呼。卑弥呼の世界を作り続けてきました。卑弥呼は間違っていると真正面から伝えてくれました。

そうです、私はそのように自分に伝えたかつたんです。私は間違つていたんです。間違っていたことを自分に伝えたかつたけれど、私にはその勇気がありませんでした。

私は私を見つめる勇気がありませんでした。私は素晴らしい者、神の化身としてきたことが私の頼りでした。私はその思いをずっと、ずっと心に秘め転生を繰り返してきました。卑弥呼は素晴らしい者ではありませんでした。本当に地に落ちた私

でした。地獄の奥底を這いすり回つてゐると言つてもらいました。そうです。その通りです。私は地獄の苦しみを味わい続けました。私はすべてを、すべてを呪つてきました。こんな苦しい私はどうしても自分で受け入れることはできませんでした。私の苦しみは自分で受け入れることができなかつた中にありました。

苦しみはそうでした。自分で受け入れることができなかつた。こんな苦しい、苦しい、みつともないみすぼらしい自分を、どうしても、どうしても、私の中で受け入れることができなかつた。私は自分自身が間違つていることを認めることができなかつた。それが苦しみでした。伝えていただき通りです。自分で受け入れることができなかつたことが苦しみでした。

今、今、少しずつ、少しずつ、苦しみを吐き出しながらも、その吐き出したところから優しい思いを感じます。温もりを感じます。ああ、これで私は少し楽になります。

自分で苦しめてきたのが自分でたということが、全く私には分かりませんでした。

九 卑弥呼。長い、長い時を経て私達は出会いました。あの飛鳥の地で、私達はともに、神に忠誠を誓つた仲間です。

私達は、心を闇に向けました。もちろん、闇とは思いもしませんでした。神に忠誠を誓う者、その思いのままに、私達は自分の肉体を動かしました。

その陰に哀れな巫女達の姿がありました。あの者達を利用して、我らは、ここに、この国を大きなものにしていこうと誓い合つたのです。卑弥呼の中には野望がありました。

心の中から凄まじいエネルギーを流してきました。

「我の言つことを聞け。我の語る言葉は神からの言葉。これに逆らう者は、即刻地獄に落ちろ。」

私は国を統治する者。我の言つことに従えば、すべてはうまくいく。すべてを支配するこの力を見よ。この力を以て、この国を治めん。

「我らはこのエネルギー、このパワーを、この国にもたらす者。」

治め、そして海を越えて我の名を轟かせたい。そして、海の向こうの国の民もすべてこの手の中に牛耳つて、己の帝国を築きたい、そんな野望がありました。

しかし、今思えば、それは、とても、とてもちつぽけな世界のことでした。

田池留吉、アルバート、私達の本当のふるさと、母なる宇宙へ心を向け、その波動を感じていったとき、

私達の心の中に作り続けてきた思い、その支配力、エネルギー、パワー、素晴らしいとしてきたパワーは、本当にちつぽけな、ちつぽけなものでした。

卑弥呼よ、私達は間違つてきました。あなたは母を呼べないと言いました。私は、母を呼んでくださいと言いました。

私も母を呼べなかつた。私の中に、母は、見下す愚かな存在でしかありませんでした。

いいえ、殺して、殺して、殺しまくつてきたそんな母親を、どうして心の中に呼べるものか。母に逆らつてやる。どこまでも母に逆らつてやると、そのように、私は、田池留吉に伝えました。

田池留吉から返つてきました。

そんなあなたの中に、私は母を呼びなさいと伝えます。あなたの中の喜びと温もり、限りない優しさを私は信じています。あなたは私、私はあなた、私達は一つ。

その思いを心に感じたとき、私は何と愚かしい私だつたことかと、本当に自分に懺悔でした。

だから、私は、今、時を経て、あなたと出会えて、本当に私が今、学

に集う前に、私達が生まれ育つたあの地を、何度も、何度も行き交いしてきました私の心でした。

「苦しかつた心をこれから見ていくよ。」

あなたに伝えていたと思います。

あの二上山を眺めながら、私はどんな思いでこの学びに集いたかったか、この真実の、田池留吉の波動に触れたかったか。アルバートの世界に触れたかったか。そんなこととはちつとも知らずに愚かな肉の時間を経て、ようやく私は、この学びに集えたんです。

今、私は卑弥呼の思いに心を向ける時間をいただいています。

卑弥呼は喜びです。私も喜びです。

喜びと喜びの中で、田池留吉、アールバートを思える喜びの時間を今いただいています。

ありがとうございます、卑弥呼。本当にありがとうございました。心の中に私達は喜びだった。私達は温もりだった。ともに、ともに帰りましょう。いつしょに帰りましょう。はい、邪馬台国、卑弥呼、そして私達のふるさと、飛鳥の地。あの二上山とともに、母なる宇宙へ帰りましょう。

一〇 神のお告げの神とは何ですか。神とは存在するのですか。

神のお告げを聞こうと、心の中にしっかりと神のお告げを聞こうと必死になつて、修行をしてきた巫女達の思いを感じます。

その意識に、神とは何ですか。神

は存在するのですか。と聞きました。「初めて、初めて、そんな問い合わせを自分でしてみました。

神とはいつたい何だろうか。本当に神はこの世に存在するのか。

これまで、ただの一度も自分の中にそんな疑問が湧いたことがありませんでした。神は存在する。神に向けて自分の心に神のお告げを聞く、

その使命があるとばかり思つてきました。神は存在すると確かに、確かに信じていた。信じていなければ、私というものがない。そこまで私は神を信じてきました。そんな答えを

心に返しながら、私は神を求めてきたんです。神の声を聞くために、私は修行をしてきた。

そんな巫女達の思いが伝わつてきます。

とても、とても、苦しくて暗くて

閉ざされた中で、神を、神を、神をと求めている、そんな思いを感じます。

私は自分の中を感じてきました。私の中にも、もちろん、巫女としての転生がたくさんあります。

巫女をたくさんやつてきました。卑弥呼という地位に昇りたかった。

卑弥呼と崇め奉られたかった。そして、私の靈能力でのしあがろうとする思いに、自分を苦しめてきた過去の私を感じてきました。

私はその自分の中の思いをしっかりと今世、感じさせていただき、それが間違つてきましたこと、本当に間違つていたことを知りました。

今、神とは何ですか。神は存在するのですか。と自分に問い合わせば、私の中に明確に答えが出てきます。

神は存在しません。私達が求めてきた神とはブラックのエネルギー。

もともとないものを求めてきました。求める心がブラックだつたんです。なぜ求めてきたのか。欲があつたからです。己を高め、己を高きに置きたかつたんです。己を捨て去ることができずに、己を掲げ、己を高めていく、闘いのエネルギーの中で求めてきた、その心中は真っ黒です。真っ暗です。そこからどんなに神のお告げだと言葉を発しても、そのエネルギーは真っ黒なエネルギー。

そのことを私は今世学ばせていました。だから、卑弥呼に心を向けた時、確かに卑弥呼という意識の世界を語ります。語るけれども、私の中には何もありません。ただそ
うだつたと、そのことを淡々と語るだけです。

卑弥呼は、孤独でした。卑弥呼は小さな世界に自分を押し留めて、た
だ、表面だけを素晴らしい者だと作り続けていかなければならなかつた
んです。そんな哀しい、哀しい人生を送り続けてきたのが、卑弥呼とい
う意識。卑弥呼だけではありません。世の中に名の知れた人物はすべてに
おいて孤独でした。

その己を崩すことは容易ではありません。孤独で、孤独で、しかしそ
んなことは表面に決して出せないと
でした。

だからこそ、余計に哀れだつたん
です。

今、あなたは母を呼べますか。お
母さんを呼べなかつたあなたでした。

神とは何か。本当の神。それは私
達の心の中の温もり、喜び、広がり、
安らぎ。私達自身がそういう存在だつ
た。それを私達は、今、愛と表現し

ています。愛のエネルギー、パワー。
私達がもともと持つていたものでした。それが私達だつたんです。その
もともと持つっていた自分を捨て去つ
て、ブラックのエネルギー、パワー
を長い、長い時をかけて求め、求め、
そして積み重ねていきました。愚か
なことを繰り返してきました。

しかし、全くそれが愚かだつたと
いうことに、ただの一人も気付けま
せんでした。

一 卑弥呼と呼ばれた意識へ。

神は存在するのか。いいえ。

神とは何か。本当の神。それは私
達の心の中の温もり、喜び、広がり、
安らぎ。私達自身がそういう存在だつ
た。それを私達は、今、愛と表現し

ああ、お母さん。ただただ優しい、優しい思いが伝わってきます。お母さん

さんに抱かれていた頃の私を、今、思い出しています。

お母さんと呼べなかつた心を、そ

の中に見てごらんと伝わってきます。

私は自分の中を閉ざしてきました。

閉ざしているという感覚すらなかつた。ただ私は、この私を大きなものとしてとらえてきました。そのとらえ方が間違つてきた、そんな気がします。

神を間違つてきたように、自分自身を間違つてとらえてきました。

私は、この母の中にある安らぎ、それを忘れてきた。安らぎ、私の中にあつたんですね。こんな安らぎがあつたんですね。

いつも、いつも、心の中は穏やか

ではありませんでした。

なぜ、こんなに神、神と求めてきたのに、私の心は、落ちていくのだろうか。私には、全く分かりません

でした。

今、母を呼んでごらん。そんな思ひに、私は、お母さんと自分の中に呼びました。

ただただ優しい、優しい、本当に優しい、優しい思いだけが広がつていきます。

この中にずっと、私はいたかつた。こんな中にあつた私を、初めて感じました。

田池留吉、アルバートに出会つていつてください。あなたはこれからも幾度か転生されるでしょう。あなたの意識の変革を私達は願つています。意識を変えていくこと、その肉身があなたではなく、私はこの意識の世界に生きていることを、あなた自身の心で知つていくために、あなたは、これから、いく度かの転生を経て、私達との出会いを持つと思います。

どうぞ、どうぞ、その間、あなたの中の変革を推し進めてください。私達は待つています。心の中に広がる思いはあなた自身です。そして、それが私達です。一つだと伝えさせ

んな嬉しい世界を感じています。

ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。ああ、ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

ていただきました。一つの世界をどんどん、あなたの中に信じていってください。

今、私達はあなたに伝えます。

嬉しい、喜びの思いはあなたの中になりました。その喜びと温もりの中にあなたが作つてきましたエネルギー、あなたという世界を、帰していきなさい。包んでいくのです。

卑弥呼は間違つてきました。卑弥呼というエネルギーは、宇宙にそのまま真つ黒なエネルギーを流して続けてきたけれど、今、私達は伝えます。そのエネルギーを、あなたの心の中で回収していきなさい。あなたは出来るんです。あなたは愛だからです。

一一 卑弥呼に思いを向けて、卑弥呼に私の心を語ります。

私はこのまま、このまま、ずっと、このまま、私の中の喜びと温もりを見つめ、存在してまいります。あなたもそうしてください。

卑弥呼よ、あなたの思い、エネルギーは私の中に届きました。

私も同じブラックのエネルギーを流し続けてきました。卑弥呼という意識、エネルギーは私の中にありました。

そして、私はそのエネルギーを自分の中の喜びと温もりで包み、ともに帰ろうと伝えています。

心の中に愛、本当の自分、喜びと温もり、広がる心、広がる世界、限りない優しいあなたがあります。そのあなたであなたを知つていってください。そのあなたであなたを包んでいてください。

これから的时间の中でも私とともに歩かせていただきます。

ありがとうございます。ありがとうございます。心を見つめまいります。私は意識、エネルギー。愛を

仕事をしていきます。心を向けていきましょう。田池留吉、アルバート、本当のあなたに心を向けていきましょう。

灯すエネルギー、パワーでした。

心の中を見つめています。私

の中を見つめていきます。

一三 卑弥呼を愛しく、愛しく、
ただただ愛しい思いで呼べること、
今、喜びです。

卑弥呼は私の心の中のエネルギー
を感じさせてくれるものでした。

卑弥呼は私にとつて特別な存在で
した。しかし、私は、今、その卑弥
呼を思い、卑弥呼に伝えることがで
きます。

喜びと温もりを伝えることができ
ます。卑弥呼へと心を向けてきた私

の中に、喜びと温もりを伝えること
ができます。

私はこの喜びと温もりの中にあり
ました。

求めなくてよかつた。何も求めな
ました。

くてよかつたんです。ただただ自分
を思えばよかつたんです。

自分の中には溢れるほどの喜びと
温もりがありました。

温もりです。母の温もりが私の中
に生きていました。私は母の中にあ
りました。ただただこの喜びと温も
りを心に持つて、私はこれからも存
在してまいります。

たくさんのたくさんの転生を経
て、たくさんのたくさんの人達に間

違いを伝えてきて、それでも私は愛
だから、こうして今、肉体を持たせ
ていただきました。

肉体を持つて自分の作つてきた間

違ったエネルギーを心に感じ、その
エネルギーは自分の中の愛で包んで
いける、自分の中に包んでいけるこ
とを知ったこと、私は本当に嬉しい
い、喜びで卑弥呼を呼びます。

一四 卑弥呼へ心を向けます。

私は喜びで、喜びで、卑弥呼を思
い、喜びで卑弥呼を呼びます。

はい、卑弥呼は語ります。

今、卑弥呼を思いながら、そして、
田池留吉を思い宇宙を思いながら、
そしてUFO達と交信しながら、私

は、日々、瞑想を続けています。

どんなにしても分からなかつた世
界。その世界を今、心に感じられる
ことが幸せです。

田池留吉、アルバート、心から、
心から呼んで、呼んで、呼び続けて
いることが嬉しいです。幸せです。
ありがとうが伝わってきます。

思いを向けるとありがとうが伝
わってきます。

ありがとうございます。ありがと
うございます。

一四 卑弥呼へ心を向けます。

私は喜びで、喜びで、卑弥呼を思
い、喜びで卑弥呼を呼びます。

はい、卑弥呼は語ります。

私の中にあつた喜びと温もり、愛のエネルギー。私はしつかりと心に感じ、そして、私は私の間違いに少しづつ、少しづつ気付き始めています。そんな私がありますと、卑弥呼は返してきます。

卑弥呼の意識を私はさらに思います。

たくさんの間違つてきたエネルギーを、あなたの心の中に、ともに、ともに呼んで、そして、愛のエネルギーを流していいください。あなたの存在を、まだまだ特別だとしている意識達はたくさんいます。その卑弥呼の像を崩していいください。

そんなエネルギーは本当に間違いだつた、あなたの中に確かに喜びと温もり、母の思いがあることをあな

た自身が伝えていつてください。

卑弥呼よ、卑弥呼。私達は一つで

す。一つの中にあつた喜びと温もりを、今、あなたに伝えます。

一五 田池留吉を思い、卑弥呼を思います。

私は卑弥呼。私の中にあつた温もりが私をいざなっています。今、静かに、静かに広がつていく中で、私は私を見つめています。愚かなことを繰り返してきました。申し訳ございません。

だから、私は必死に、必死に神を求めていきました。そんな私の過去でした。

私は卑弥呼という意識の世界を作り続けてきました。

ない神をあるものとして伝え続けてきた愚かな存在でした。

そのことに気付いてくださいと伝えていただいています。

あなたの中の喜び、温もり、広が

る心、それがあなたですよと伝えていただいています。

それが神と言えば神なのですね。

も言えない真っ黒な中を、私は生き続けてきました。

私は神を知らないと言えなかつた。私は神に逆らうこと恐れています。神に逆らえれば、私はこの私がどうなるのか、とても、とてもそんなことはできませんでした。

だから、私は必死に、必死に神を求めていきました。そんな私の過去でした。

私は卑弥呼という意識の世界を作り続けてきました。

ない神をあるものとして伝え続けてきた愚かな存在でした。

そのことに気付いてくださいと伝えていただいています。

あなたの中の喜び、温もり、広が

る心、それがあなたですよと伝えていただいています。

それが神と言えば神なのですね。

私の中にあつた。私の中にあつたんです。私自身でした。私は私を知りませんでした。

愚かなことをやり続けてきました。申し訳ありません。哀しい、哀しい私の思いを語らせていただきました。

哀しく辛くて苦しい中で、ようやく、私は自分の間違いを見つめることができる時期にきたんです。伝わってきます。喜び、温もり、優しさ、

目覚めてくださいと伝えていただきました。愚かな私を見つめてまいります。

田池留吉に心を向け、もう一度卑弥呼を思います。

卑弥呼を語ることは喜びでした。卑弥呼を思うことは喜びでした。

一五 私の中の卑弥呼を思い瞑想

私はこの暗闇の中に、真つ暗闇の中に自分を落としてしまったんで

少し心を広げてくれているようです。伝わっていることを語つてくれています。喜び、温もり、優しさの中にあつたことを、もつと、もつと信じてほしいと思います。そうすれば、どんどん意識の世界が変わつていきます。大きな闇の部分が少しずつ変わつていけば、そこに繋がつている意識達に搖さぶりをかけることができます。

「私の中によくよくよく、安らぎが蘇つてきます。心の中にはありました。私は、ああ、この安らぎを求めてきました。お母さん、お母さん、そんなふうに、ただただお母さんを呼びたかった私があります。

小さかつた頃、私はお母さんと素直に呼んでいた。なのに、私は、いつの間にか、お母さんと呼べなくなってしまった。

そんなに私は偉いのですかと、私は私に尋ねてみました。

そう、あなたは偉く、偉くありました。あなたは神より言葉を賜りしました。あなたは神より言葉を賜りし者。そのように私の中から伝わつてくる私を感じてきました。全く愚かなことでした。

をします。

すね。今、私はようやく、この静かな、静かな広がりの中で、私を思うことができます。私は私に申し訳ない。本当に申し訳なかつた。自分を知らずに存在してきたことが愚かでした。」

「卑弥呼よ。はい、もつと、もつと心を広げていけるんですよ。あなたの中はもつと、もつと広い世界があります。あなたは今、安らぎと言いました。その世界はまだまだ、とても、とても小さな世界です。もつと、もつと大きな世界に、あなたは存在しているんです。それがあなたです。」

今、私達はその愛の世界を学んでいます。愛と心を向けてください。そして、田池留吉、アルバート、お母さんと呼んでください。

愛と思い、田池留吉、アルバート、

私の過去は、ずっと間違った神を

お母さんと呼んでみてください。」

「私は、何もありませんでした。私の中には何もありませんでした。私は卑弥呼という名前にこだわっていいた自分を感じます。この広い、広い中に私は、ああ、存在していたんですね。ただただ、ただただ広がつていく。優しい、優しい中に私は広がつていきます。」

一六 苦しくもあり、哀しくもあり、しかし、私は卑弥呼を思うこと、卑弥呼と思いを向けることが嬉しかつたです。

『意識の転回』の本の朗読を終えてすぐに、卑弥呼に向けるお勉強が始まり三週間が経ちました。

ありがとうございます。

徹底的に、田池留吉に歯向かい、母の温もりを否定してきた自分に出

神としました。その中で心に響いてきたものを、自分の口を通して語つてきた過去。その過去をしつかりと見つめて、今世、私は自分の中を修正することを約束して生まれてきました。

田池留吉との出会いにより、私の過ち、間違ったものを伝えてきたという過ちを自分の中でしつかりと確認し、そして、それがどんなにすごいエネルギーを宇宙に流し続けてきたかを確認してきました。

その自分に対しても詫び、また、その自分を愛しく自分の中で包み、本当の自分に目覚めるために、私はこうして、田池留吉の肉と出会い、学びをしてきました。

母の温もりを否定してきた自分に出

会わせていただきました。

愛の中にあつたから、そんな自分と出会い、そんな自分を知り、そんな自分に本当のことを伝えることができたんです。

私は、そのことを思うたびに、本当に幸せ者だと思つています。

私は、私の中にチャネラーだという思いは今もありません。

もともと、私の思いは、自分がチャネラーになつて、どうこうするというのではなく、ただ、自分は、過去間違つてきたことを、本当に自分の中で見つめていきたかったんです。そして、私は、田池留吉に心の針を向け合わせて語ることこそが喜びだと、本当に知つたんです。

過去、間違つた神を心に信じ、神の言葉を伝えてきたことについて、今、形は、私は同じようなことをやつ

ています。

しかし、私の心中は知つています。

この波動、この温もり、この喜び、この安らぎ、広がり、そこから来る波動の違いを、私は今世の肉を通して確認させていただきました。これが私の学びでした。

だからこそ、私は田池留吉、アルバートのメッセージを波動として受けていますし、これからも受け続けていきます。

一七 今、私の中に卑弥呼を呼んでみます。

田池留吉、アルバート、お母さんと呼んでくださいと卑弥呼に伝え、そして、私は私の中の卑弥呼を呼んでみます。思つてみます。

私が心に受けている波動は、まさしく、田池留吉、アルバート、本当の自分からの波動、エネルギーだと確信があります。

ありがとうございます。私は卑弥呼と呼ばれた意識。その意識の世界を語つてまいりました。私の中に喜び、温もり、母を呼べる素直な私があつたことを感じさせていただきました。

間違つたものを伝え続けてきた

田池留吉、アルバートの波動を、

愚かな過去を学ばせていただき、そして、私は、私の心は、二二五〇年、三〇〇年後へ続いていくことをしつかりと感じ、ただただ心の針を向け合わせていく喜びの中になります。

愚かな過去を学ばせていただき、そして、私は、私の心は、二二五〇年、三〇〇年後へ続いていくことをしつかりと感じ、ただただ心の針を向け合わせていく喜びの中になります。

私の心は受けさせていただきました。

田池留吉、アルバートと呼んでごらんと言われ、私はその中に思いを向けました。

私は広がつていきました。私は広

がつていきました。私はどんどん広がつていきました。静かな、静かな優しい中に私が広がつていったことが感じられた。

私はとても嬉しかった。小さな中に凝り固まってきた私なのに、私は広くて、広くて、静かで、静かで、穏やかで優しくて、何とも言えない喜びを感じさせていただき

ともに帰りましょう。ともに、ともに歩いていきましょう。私は伝え
ていただきました。

卑弥呼と呼ばれたことが、私の中で、ずっと、ずっと重りになつてい

ました。自分を沈ませてきたんです
ね。私はこの広がっていく私を、心
から信じていきたいと、今、思つて
います。語させていただき、ありが

心に感じてくれたと思^うい^{ます}。どうでしょ^ううか。今一度、私はあなたに想^いいを向^けてみます。どうぞ、今^のあなたの心を語^つてみてください。

私は、卑弥呼と呼ばれてきた意識です。はい、私は間違ってきたことがはつきりと自分で分かります。

私は何も分かりませんでした。何も知りませんでした。私自身を知らなかつた。そんな私を今、心に感じています。

母の思いが心に響いてきます。私は

はずつと、ずっと、苦しい、苦しい
暗い中で固まつた状態でいたけれど、

母の思いを心に感じたとき、母の思いが伝えてくれているんです。

「待っています。待っています。」

うぞ、心を広げてください。私の中

へ帰つておいで。戻つておいで。あなたの中の喜びと温もりはあなた自身。私の思いです。私の思いです。母の思いです。」

そんな母の思いを心に感じたとき、私は本当に自分の愚かさを感じました。ああ、申し訳ございませんでした。何も分からぬのに、さも神を知つたかのように、神がこのよううに申していますと、神がこのように、私を通して伝えてきましたと、そのように己をただただ高く掲げてきただけです。

己を前に出してきただけでした。私は何も知らないで存在していたんですね。だから、私は、ああ、自分の中を見ることをしなかつた私は、この肉体を終えたあと、暗闇の真つ暗闇の闇黒の底に沈み込んで、そこでただただじつと、じつと固まる以外

はありませんでした。

しかし、今、ああ、私は、伝えていたただいたことをやつっています。

お母さんと呼んでごらんなさいと。そう、私はお母さんを呼びました。そうしたとき、私の中に温かい思ひが広がつていくんです。お母さんの思いが伝わつてくるんです。

「帰つてきなさい。帰つてきなさい。」

だから、私は、母を思います。私は自分の中を、じつと、じつと、今、見つめています。感じています。感じじることができます。感じることができるようになつたんですね。

一九 卑弥呼を、ようやく明るいところで語れることができが喜びです。卑弥呼と思えば喜びが広がつていきます。

ともに帰りましょ。あなたもともに帰りましょ。

卑弥呼に伝えることができます。

私の中の卑弥呼は、喜びで、喜びで応えてくれます。そして、私達とともに歩いていけることを感じます。

これから的时间の中で、卑弥呼の

もりの中で、私はじつと、じつと自分を感じていくことができる。これだけ私は少し樂になりました。

また私に何か伝えてください。私はお母さんを呼び、じつと、じつと自分を見つめています。ああ、私は少し樂になりました。お母さんと呼んでいきます。

意識は肉を持つでしょう。そして、二五〇年後に私達との出会いがあります。

私は卑弥呼に伝えます。

あなたも愛、愛のエネルギーです。愛のエネルギーを自分の中にただひたすらに広げてください。

愛のエネルギーとは、あなた自身です。あなたの中の愛に目覚めていてください。今、卑弥呼にそのように伝えることができます。

卑弥呼、あなたは愛です。愛はあなたです。あなたの中にあつた喜びと温もり。あなたの内で信じて、信じて、あなたの中に広げていってください。私達と出会う時を、楽しみに待っています。

卑弥呼、あなたは間違つて存在してきました。間違つて、間違つて存在してきたあなたを、私は、今、愛

しく、愛しく、感じます。

喜びです。喜びです。ありがとうございます。

お母さん、私は間違つたことを、たくさん、たくさんしてきました。

この喜びと温もりの中で、これからも私を見つめていきます。

お母さん、私は間違つたことを、

二〇 卑弥呼よ、語りなさい。

はい、思いを向けてくれてありがとうございます。はい、ともに、ともに帰れることを伝えていただきま

した。ああ、ありがとうございます。卑弥呼よ、語りなさいと私は心を向けられた。嬉しいです。ありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。

私はお母さんを思っています。お母さんと呼んでいます。

ああ、私は、ああ、本当に、本当に長い、長い間、私は私を閉じ込めじて、あなたの中に広げていってください。私達と出会う時を、楽しみに待っています。はい、ありがとうございます。

私は、ああ、この中で、私を見つけてきました。お母さんと呼んでいます。嬉しいです。ありがとうございます。ありがとうございます。

喜びを伝えてくれました。温もりを伝えてくれました。私は、ああ、

卑弥呼よ、あなたが信じてきた神の実態が、心で分かりましたか。

そして、それは本当にブラック

ありがとうございます。

であることを、本当にあなたの心の

中に伝わりましたか。あなたは、自

分がしてきた間違いがどんな間違い

だつたか、心で感じていますか。

私達は間違ってきたことを、あな

たが心で知った分だけ、あなたに関

わってきた人達の心の世界が変わっ

てまいります。

どうぞ、どうぞ、あなたの心をじつ
と、じつと、しっかりと感じていつ
てください。

神として崇め奉られたかつた私の
心の底の底を、感じさせていただき
ました。間違いを伝えていただき、
ありがとうございます。その思いに私はしつか
りと自分を寄せてまいります。その
思いの中へ、自分の心を合わせてま
いります。ありがとうございます。

えてくれたんだと思いました。鼠に
ありがとうございました。ありがとうがとう。

それから鼠は居なくなりました。

不思議？ 愛が仕事をしたんで

しょうか。

■頂いたメールより

「面白い出来事がありました」

福岡県 Eさん

「愛のシャツを枕にかけて寝たら」

アメリカ Nさん

猫が十二年居ましたが十一月に亡
くなりました。ひと月もすると鼠が
精米機の糠を食べに来たり出没する
ようになりました。猫が来る前の鼠
の悪さが思い出されて、鼠に対して
敵対心がムクムクと沸いてきました。
押入れや箪笥の隙間など気になり始
めました。又、猫を飼わないといけ
ないのかと思つていました。

そうだ！鼠は我が家の中でも思つ
てました。有難う！



メッセージ

喜びです。

その過程を経ることなく、本当の

UTA会のホームページに掲載していま
す『私はあなた、あなたは私、一つ』の
メッセージ、一〇〇から一〇五までです。

喜びと幸せには辿り着けないことは、
どなたもみんな本当は知っているん
です。

偽りの喜びと幸せに囮まれて、偽
りの中で生きていく人生とは、一日

も早く決別してください。それぞれ
に残された肉のある時間、どうぞ、
大切にしていきましょう。

動機が間違つていれば、他力信仰
の延長線上にあります。

本当に自分と真向かいになつて、
真摯に自分と向き合つて、自分の中
の喜びと温もり、愛溢れる自分を知つ
ていく、そんな力強い一步を踏み出せ
るような学び方をしていきましょう。

喜びが私達の本当の姿です。喜び、
温もりは自分の中にある、本当に心
で知つて、それぞれの肉を終えてく
ださい。

一〇一 九月のUTA会セミナー
まで、少し時間がありますが、その間、
スカイプ瞑想もいくつか予定されて
います。

どうぞ、ご自宅で瞑想を重ね、そ
して、スカイプ瞑想会という学びの
機会をしつかりと活用されて、自分
も少なく、UTAの輪の学びが始ま
つてまいります。

ともに同じ方向を向き、喜びを共
に感じて、喜びを増やしていきま
す。間違い狂い続けてきた自分を感じ
ていくことは喜びです。間違い狂い
続けてきた自分を知つていくことは

の中のエネルギーを確認してください。

学びに集われたこと、本当に心か
ら喜んでいますか。

今一度、学んでいる動機を確認し
てください。

一〇〇 風薫る五月。新緑も目に鮮
やか、目に心地よい季節到来です。
心も爽やか、すつきり、そして、
伸び伸び広げていきましょう。

明るくて、温かくて、優しい、ど
こまでも優しい中にあつた私達だつ
たということを、目を閉じ、五官を
閉じる時間の中で感じていってくだ
さい。自分を解き放していく喜びは、
間違い狂い続けてきた自分を感じて
いけばいくほどに、心から自ずと湧
き起つてきます。

間違い狂い続けてきた自分を感じ
ていくことは喜びです。間違い狂い
続けてきた自分を知つていくことは

有していきましょう。

向くか、向かないかはそれぞれにかかっているのです。向きたいから向かせよと思うのが他力のエネルギーです。自分で気付いていかなければ一步も進めません。

—〇一 今日から、今年の後半に入ります。時間の経つのは早いですね。本当に早いです。日々、喜んで楽しんで瞑想を続けていますか。続けてください。

そして、心の中の闇、そう、自分を知らずに間違つて作つてきた他力のエネルギー、そのエネルギーをどうぞ、心からしつかりと吐き出し、そのエネルギーを確認して、自分の中へ、喜びと温もりの中へ帰してください。

ともに、ともに歩いていきましょう

う。ともに、ともに存在していきましょう。そのように帰していってください。

それが今、そこにあなたが肉体を持つて存在しているたつた一つの理由です。自分を自分で受け入れ、自分を愛に帰す、本来の自分を取り戻す、本来の自分を思い起こす、その作業をするために、こうして肉体を持ち、色々な出来事に出会っています。

周りはすべて自分を見させてくれます。そこからエネルギーを感じてください。そして、そのエネルギーが自分の中になつたことを、喜んで受け入れてください。

落ち込まず、めげずに、楽しんで喜んで、ありがとう、ありがとうと受け入れていつてください。

波動が変わらなければ何も変わらないんです。

なぜならば、私達は意識、エネルギーだからです。

自分の流すエネルギーの質の変化があつて初めて、学んでいますとい

でしつかりと確認していきましょう。

—〇三 先日の権原のセミナーで、

田池留吉氏がおつしやつていました。UTAの輪という小冊子、どうぞ、日々活用してください。

特に、学びの動機の修正は、必ずどなたもやつてください。

動機の修正なしに、学びを正しくとらえることはできません。

ということは、どんなに闇の大噴出をやり続けても、自分の中の変化、つまり波動が変わつていくことはないと知つてください。

心の中の愛。その愛とは本当の自分。その愛のエネルギーを瞑想の中

ともに、ともに歩いていきましょう

うことになるかと思います。

大噴出の作業を通して、自分の作ってきたエネルギーを確認して、そして、そのエネルギーをしつかりと自分の中の喜びと温もりで包んでいくようになつてください。

そして、どんどん自分の作つてきた凄まじいエネルギーを自分の中に吸収していき、どんどん自分を広げていきましょう。喜びと温もりの自分をどんどん知つていきましょう。

そのためには、必ず学ぶ動機の修正を済ませてください。

一〇四 死は、遠くにあるものではありません。非現実的なものではありません。

肉体を持つて田池留吉、お母さんを呼べる、思えるならば、肉体がなくとも田池留吉、お母さんを呼べる、

思えるはずです。
しかし、現実、そうでないのはなぜなんでしょうか。

呼べば通じる、思えば通じる、このことを徹底的に確信する、確信の上に確信を重ねていく、この心意気で学びを自分の中で進めてください。

自分と自分の学びです。その自分が分かれば、愛が全宇宙に自ずと流れていきます。そして、全宇宙とともに次元移行へ向かつて突き進んで

いく意識の流れだけが、はつきりと見えてきます。

一〇五 第十七回 U T A会セミナー、あなたにとつてどんなセミナーでしたでしようか。

あなたの一步を進めるセミナーでしたでしょうか。それぞれ、ご自分の中で振り返り、前へ、前へ進んで

いくようにしていきましょう。

私達は、意識、エネルギーです。真っ黒な凄まじい破壊のエネルギーを作り続けてきた愚かな、愚かな自分と、どんどん出会つてください。

出会える喜びが、今あなたの目の前にあります。そして、それを自分の中の温もりに帰していける喜びと幸せも、あなたの目の前にあります。

どうぞ、今世のチャンスを絶対に無駄にしないでください。

次元移行という意識の流れを、あなたの次の転生、そのまた次の転生へと必ず繋ぎ、私達との再会を果たしてください。

肉体を持たずに存在する無数の宇宙達とともに、私達は次元を超えてまいります。このことを自分の心で感じられるあなたに蘇つてまいりましょう。

『UTA会からのお知らせ』

今年度2013年度からUTA会の会費が2,000円に変更になり、冊子等の配布はなくなりました。今後も変更等があるかもしれませんので、UTA会ホームページを、必ず確認するようお願いいたします。

今号では、来年度のUTA会開催日程のご案内、および来年度のUTA会会員継続のご案内をさせていただきました。よろしく、お願ひいたします。

● UTA会会員状況とお知らせ

1) 2013年度UTA会の10月31日現在の会員数は以下の通りです。

- ・正会員 923名（海外在住者18名含む）
- ・準会員 50名（海外在住者1名含む）

2) 今年度2013年度UTA会の開催予定

2013年度、残りのUTA会の開催日程は下記の通りです。

◆第18回UTA会 12月15日(日)～17日(火)／前日泊 12月14日(土)
申込期間 11月5日(火)～11月25日(月)／キャンセル連絡日 11月29日(金)

◆第19回UTA会 2014年3月23日(日)～25日(火)／前日泊 3月22日(土)
申込期間 2月10日(月)～3月3日(月)／キャンセル連絡日 3月7日(金)

※キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

3) 来年度2014年度UTA会の予定

2014年度は、年4回のUTA会開催を予定しています。日程は下記の通りです。

◆第20回UTA会 5月11日(日)～13日(火)／前日泊 5月10日(土)
申込受付期間 4月1日(火)～4月21日(月)／キャンセル連絡日 4月25日(金)

◆第21回UTA会 7月13日(日)～15日(火)／前日泊 7月12日(土)
申込受付期間 6月2日(月)～6月23日(月)／キャンセル連絡日 6月27日(金)

◆第22回UTA会 9月21日(日)～23日(火)／前日泊 9月20日(土)
申込受付期間 8月11日(月)～9月1日(火)／キャンセル連絡日 9月5日(金)

◆第23回UTA会 12月21日(日)～23日(火)／前日泊 12月20日(土)
申込受付期間 11月10日(月)～12月1日(月)／キャンセル連絡日 12月5日(金)

※キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

4) 来年度2014年度UTA会に継続を希望される方へのお知らせ

少し早めではありますが、UTA会のホームページをご覧になれない方もおられますので、来年度2014年度UTA会に継続を希望される方へ、申込受付期間をお知らせいたします。

【2014年度UTA会の継続案内】

- ・受付期間 2014年3月5日(水)～3月28日(金)
- ・年会費 2,000円
- ・振込先 口座番号:01700-5-140092 口座名:UTA会

会員の継続を希望される方は、郵便局より青い振替払込書にて、年会費のお振込みをお願いいたします。住所変更やメールアドレスの変更等がありましたら、その用紙に、新しい住所やメールアドレスの記載をお願いいたします。

なお、会員番号につきましては、継続をされる方は、今までと同じ番号です。

5) UTA会セミナーのインターネット配信について

UTA会の会員の方は、セミナーのライブ配信を観たり、また、配信した録画データをダウンロードできるようになっています。ご覧いただくには、すでにお知らせしましたユーザー名とパスワードを入力してください。詳細はUTAブックのホームページをご参照ください。

● 次回のUTA会セミナーのご案内

1. 開催日時と場所 (遠方から参加される方のために、前日泊も設けています)

① 開催日程

◆第18回UTA会

2013年12月15日(日)～17日(火) 参加人数800名

2013年12月14日(土) 前日泊 参加人数300名

17日(日) 13:30～17:00(12:00開場)

席決めの抽選を12:45より行います。

18日(月) 10:00～17:00

19日(火) 10:00～12:00(会場は14:30まで使用できます)

【申込受付期間】 2013年11月5日(火)～11月25日(月)

【キャンセル連絡日】 2013年11月29日(金)

※キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

② 会場 琵琶湖グランドホテル

〒520-0101 滋賀県大津市雄琴6-5-1 / TEL 0775-79-2111

2. 参加申込日程と参加料金 (料金にはセミナー会場使用料も含まれています)

| 申込日程 | | 会員料金 |
|-----------|---------|---------|
| 前日泊 | 夕食・朝食付 | 10,500円 |
| 前日泊+全日程 | 3泊4日8食付 | 30,500円 |
| 前日泊+前半1泊 | 2泊3日5食付 | 20,500円 |
| 全日程 | 2泊3日6食付 | 20,000円 |
| 前半1泊／後半1泊 | 1泊2日3食付 | 10,000円 |

※ 初めて参加される方の参加料は、会員と同じです。但し、会員でない方のUTA会参加は、初回のみとさせていただきます。

※ 小学生、幼児は別料金になりますので、ホームページをご参照ください。

3. 申込方法について

① 申込受付期間内に、お近くの郵便局に備え付けの青い振替払込書にて、UTA会セミナー料金をお振り込みください。それで受付とさせていただきます。

② 振替払込書に、氏名、会員番号、申込日程を、必ず明記してください。布団、食事を必要としないお子様の名前、年齢も、ふりがな、必ず明記してください。

※ 複数名でお申し込みの場合は、それぞれの氏名、会員番号、申込日程を必ず明記してください。

※ 同室希望については、第11回UTA会より変更させていただきました。

[同室希望の条件]

① 80才以上の高齢の方で、家族等の介護が必要な方。

② 今現在、病気治療中で、家族または他者の介助がなければ参加の難しい方。

③ 小さいお子様をお連れの方。(原則として、お子様はお母様、または保護者の方と同室になります。)

[同室希望の申込み]

上記の条件を満たし同室を希望される方は、参加費用を振り込む前に、久保幹事長へ電話をされて、同室希望の了解を得てください。その後、郵便局から参加費用をお振り込みください。

(久保幹事長の了解を得ずには、振替払込書に記載された同室希望は無効とさせていただきますので、ご了承ください。)

[連絡先]

久保幹事長 TEL 090-8941-7320 (電話番号が変更になっています)

※ 簡易ベッドについて、第8回UTA会より有料となりました。

簡易ベッドをご希望の方は、ベッド代として1泊につき500円の代金を、セミナー料に加えて一緒にお振り込みください。

なお、セミナーでベッドをご希望される方が増えており、用意できる簡易ベッドの数に限りがあるため、ご希望の方全員にベッドを用意することが難しくなりました。

そのため簡易ベッドのご希望は、車椅子をご利用の方、または病気等でどうしてもベッドが必要な方のみとさせていただきます。また、ベッドのご希望に添えない場合には、その旨、ご了承いただきたいと思います。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

※ 会員でない方が、初めて参加される場合は、振込払込書に、氏名、ふりがな、申込日程、住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレスを明記してください（性別、年齢等はUTA会の部屋割りに、メールアドレスは受付確認メールの送信に必要となります）。

但し、会員でない方のUTA会参加は、初回のみとさせていただきます。なお、会員でない方の参加は、今までに開催されたセミナー、勉強会等に一度も参加されたことのない、まったく初めての方のみ、受け付けさせていただきます。

③ 振込先（振込口座番号、入金金額は、必ず確認をお願ひいたします）

口座番号：01700-5-140092

加入者名：UTA会

④ 入金の確認ができ次第、UTA会受付確認のメールを送信いたします。

なお、郵便振替払込書がこちらの手元に届くまでには4日間ほどかかりますので、確認メールの到着までには、一週間ほどお待ちください。また、メールアドレスをお持ちでない方へは、ハガキにてお知らせいたします。

4. キャンセルについて

- ・キャンセル連絡日までのキャンセルはメールで、また、キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセルは、必ず、久保幹事長まで電話にて連絡をお願ひいたします。
- ・キャンセル連絡日までのキャンセル料は、無料です。
- ・キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセル料は、総額の100%です。
- ・UTA会当日にキャンセルされる場合でも、必ず、久保幹事長まで電話連絡をお願ひいたします。

（なお、久保幹事長の連絡先は最終ページに掲載しています。）

5. 参加についてのお願い

(第18回UTA会より変更になりましたので、必ず、ご確認をお願いいたします)

- 1) 参加のお申し込みは、必ず、申込受付期間内にお願いいたします。
- 2) 義務教育中のお子様の学校を休んでの参加、または幼児、小、中学生の保護者同伴なしで参加することはできません。
- 3) 家族（夫、妻、舅、姑、子供…）に、UTA会への参加を反対されている人、または家族、職場に対して嘘をついている人は、参加することはできません。
- 4) 参加費用を借金している人は、参加することはできません。
- 5) 宿泊セミナーをお申し込みの方で、セミナー会場以外のホテルに宿泊して参加することはできません。
但し、事情によっては幹事長の了解を得ての参加は可能の場合があります。
- 6) ホテルや他の宿泊客に迷惑をかける人、またはUTA会の進行を妨げるような行動を取る人は、参加することはできません。
- 7) 参加者同士がトラブルを起こした場合、当事者間で解決が見られるまで、参加することはできません。
- 8) セミナー期間中に個人的な物品の販売は、お止めください。
- 9) 一お子様を同伴される方に—
セミナー会場の外に、お子様達の過ごす【子供部屋】を1室設け、セミナーのライブ配信を行っています。

セミナー中は、お子様達は全員【子供部屋】にてお過ごしいただき、保護者の方、または保護者の方々で話し合って交代にするなどして、責任を持ってお子様達の面倒を見るようにしてください。

会場内で静かにできるというお子様もおられるかもしれません、参加しているお子様は全員、こちらの部屋のご利用をお願いいたします。

また、セミナー時間中に、ホテル内のロビー、廊下、休憩スペース等で、お子様達を遊ばせるのは、ホテルや他の宿泊客に迷惑がかかりますので、おやめください。

さらに、音の出るオモチャは持ち込まないようにしてください。

但し、小学校高学年で、自分で勉強しようとセミナーに集中されているお子様は、会場にてご参加いただいても構いません。

6. セミナー会場の座席、及び開場時間についてのお願い

毎回、セミナー会場での座席は抽選くじで決めさせていただいておりますが、抽選くじで当たった番号以外で座る方や、友達同士で抽選くじ番号以外で纏まって座る方がいるなど、参加者の方々から苦情が寄せられております。また、セミナー会場の椅子席が足りなくなる状況が出ています。そこで、セミナーに参加される皆様へのお願いです。

① 座席について

セミナー会場での座席は、田池先生ご夫妻、塩川さん親子、UTA会責任者の久保

夫妻の6人以外の方は、必ず、抽選くじを引いて、当たったご自分の番号でお座りください。友人等、他人の番号で座るのはおやめください。また、家族で参加されている方は、抽選くじは家族で1枚引いていただき、その番号でお座りください。

なお、初参加の方の席は、こちらで「初参加者席」という紙を置いた席を用意しますので、そちらにお座りください。初参加者を紹介された方も一緒に座ってください。結構です。

②椅子席について

毎回、足の悪い方、ご病気の方、高齢の方、難聴の方、初参加者のために、椅子席を用意しております。セミナーは床に座って受け付けていただくのが基本となっております。ご事情により、長時間、床に座るのが辛い方のための椅子席ですので、健康な方は抽選くじを引かれて、床に座ってご参加ください。

③セミナー会場の開場時間について

セミナー会場の開場は12時です。セミナーの準備等がありますので、開場時間前にセミナー会場に入るのはご遠慮ください。開場時間まで、ロビー等でお待ちください。

※ セミナーに参加されている方は、どなたも前へ座りたいというお気持ちは分かりますが、抽選で座席を決めるというルールをお守りいただきたいと思います。

なお、抽選時間前にハンカチ等で座席を取られている場合、また、12時開場前に椅子席にハンカチ等で席を取られている場合は、ハンカチ等を撤去させていただきますので、予め、ご了承ください。

7. 会場ホテルへのアクセス

・電車をご利用の方

大阪・東京方面→JR京都駅→JR湖西線「おごと温泉駅」下車(JR京都駅より20分)
→琵琶湖グランドホテル (JRおごと温泉駅よりホテルの送迎バスにて5分)

・自動車をご利用の方

大阪・東京方面→名神高速道路 京都東IC→西大津バイパス仰木雄琴IC→
国道161号線→琵琶湖グランドホテル (仰木雄琴ICより5分)

【スカイプ瞑想会のご案内】

UTAブック主催のスカイプ瞑想会が毎月開催されています。

スカイプ瞑想会は、田池先生、塩川香世さんと各地の会場を結んでスカイプで結んで行われている勉強会です。

このスカイプ瞑想会は、UTAブックのホームページよりご覧いただくことができます。詳細はUTAブックのホームページをご参照ください。

【連絡先】

・お問い合わせは、UTA会サポートまでメールでお願いいたします。

メールアドレス：support@utakai.net

・キャンセル連絡日までの変更、及び、キャンセルは、上記UTA会サポートまでメールでご連絡ください。

また、キャンセル連絡日を過ぎての変更、およびキャンセルは、久保幹事長まで電話にて、ご連絡ください。

また、同室希望のお問い合わせも、久保幹事長まで電話にて、ご連絡ください。

※ 幹事長 久保明子 TEL 090-8941-7320 (電話番号が変更になっています)

※ UTA会のホームページ (<http://utakai.net/utakai/index.html>) でもセミナーの案内等を掲載しています。ぜひ、ご参照ください。

【草書体の「愛」の文字が入った品物について】

UTA会では、今までボールペン、湯呑み、急須、タオルなど、たくさんの草書体の「愛」の文字が入った品物を製作し、配布または販売させていただきました。多くの皆様にご利用いただき、ありがとうございました。

草書体の「愛」の文字の入った品々は、それを身近に置いたり、使用したり、または着用したりすることで、常に心が「愛」に向くためのグッズとして製作されたものです。

すでに完売したものもありますが、今後も学びの手助けとして、草書体の愛の文字の入った品物の製作、販売を予定していますので、ぜひ、ご利用いただければと思います。

販売方法としましては、UTA会のセミナー会場にて販売を行いますが、セミナーに参加できない方には発送での販売も受け付けていますので、ご利用ください。

今後、新しく草書体の愛の文字の入った品物が発売される場合には、UTA会ホームページ上でご案内いたしますので、よろしく、お願ひいたします。

※ UTA会の連絡先が下記のように変更になりました。

UTA会のホームページ上からのお問い合わせや、サポートのメールアドレスは変更になっていませんので、そのまま、お使いいただけます。

【連絡先住所】

〒 585-0005 大阪府南河内郡河南町大宝 3-8-25

UTA会事務サポート 中村康一

TEL 0721-21-1814

